



持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム
(Japan Youth Platform for Sustainability : JYPS)



2023年度 活動報告書

はじめに

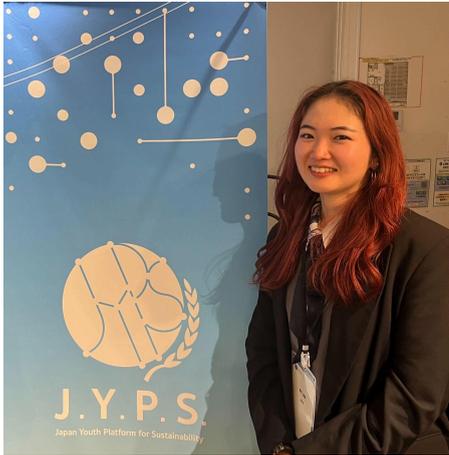
持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム (JYPS)は、社会のすべての構成員が、公平に自らの意見を政策に反映させることを通じて、衡平で公正な社会が実現された世界を目指すなかでユースの意見を集約・調整する自治民主的な仕組みの設立、管理、そして改善をすることを通じて、ユースが政府や国際的な枠組みに対しその意見を反映させることを可能にすることをミッションとして活動しています。

当報告書は、JYPS事務局の2023年度の活動の記録になります。JYPS事務局の一連の活動にご協力いただいた皆様、多大なる支援をくださった全ての皆様に感謝申し上げます。

はじめに.....	1
ご挨拶.....	3
田中梨奈(2023年度共同事務局長・退任).....	3
本行紅美子(2023年度共同事務局長・2024年度継続).....	4
森井悠里香(2024年度新共同事務局長).....	4
JYPSについて.....	5
活動内容.....	5
仕組みとガバナンス.....	6
2023年度事務局員.....	7
2023年の主要活動.....	8
JYPS事務局主催(共催)イベント.....	9
国際会議への参加.....	10
参加ネットワーク一覧と担当者.....	11
収支報告.....	12

ご挨拶

田中梨奈(2023年度共同事務局長・退任)



このたび2年間在籍していたJYPS事務局を退局することになりました、共同事務局長の田中梨奈です。

まず、日ごろからJYPSにご関心いただき誠にありがとうございます。そして特にこの1年間ユースアドボカシーに注目が集まる中で、先日行ったキックオフイベントはじめ、G7広島サミットに向けたYouth Summit 2023 in 広島、SDGsサミットに向けたSDGs Youth Forumなど共同事務局長、田中と本行が率いる事務局体制を応援してくださった皆様、大変ありがとうございました。

「ユース」は全てが発展途上であり、未開拓であるテーマです。現在もJYPSは多くの論点を抱えていますが、確かに私が入局した時よりもJYPSの活動自体に関心を持ってくださったり、ユースアドボカシーの重要性に気づいてくださる、共感してくださる人が増えているのではないかと実感しています。

また、JYPS事務局はMGCYにおける定義や有効的な「意味あるユース参画」に適した年齢として30歳以下をユースとして活用していますが、このJYPSのメンバーが「ユース」のために日々前進できていることはありがたいことです。特に、少子高齢社会の中で、政治的な意見を公に発信することがまだまだ珍しく、出る杭は打たれる傾向の強いこの日本で、ユースの声を守り、届ける、そのチャンネルを残すために日々健闘するエネルギーがJYPSにはあることは大変誇らしいです。

このたび2024年度からJYPSは私の後任に国際プロセスの経験が豊富な森井をもう一人の共同事務局長として迎えます。引き続き代表性、包括性、継続可能性を問いながら、より良い社会を実現させるためにJYPSは邁進してまいります。

2030年のSDGs達成の貢献に向けて、まず、2025年度に行われる日本政府によるVNRを一層盛り上げるため、Voluntary Youth Review(自主的なユースレビュー:VYR)に挑戦します。これにはユースを含めた多くの方の協力が引き続き必要です。

皆様のJYPSへのご関心・ご協力をお願いするとともに、JYPS事務局退局の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

本行紅美子(2023年度共同事務局長・2024年度継続)

昨年度から引き続き共同事務局長を担当いたします、本行紅美子です。2023年度はJYPS事務局が組織として発展していくために非常に重要な年でした。年度初めにC7・W7というG7サミットに関連するグループの幹事団体としてイベントに参画し、また、SDGs達成までの折り返し地点ということで事務局員がNYに渡航し、日本のユースとして海外ユースや関係者と意見交換を行いました。この他にも国内外のユース組織との連携強化や日本の省庁との関係構築も行ってまいりました。



2024年度は昨年度までの経験をもとに、JYPSが草の根レベルの活動を展開する年になると考えています。日本のユースの声を集約する機関として調査・提言活動に注力していく予定です。JYPSが発足して来年で10年となる前に、加盟員の皆さまとの協働体制の重要性を今一度認識し、JYPSが組織として今後も発展していけるよう職務を全うしたいと思っています。ご支援ご協力よろしくお願いいたします。

森井悠里香(2024年度新共同事務局長)



2024年4月より共同事務局長の任を拝することとなりました、森井悠里香と申します。2022年度よりJYPSでの活動を開始し、ユース参画の意義や分野・セクター・国境を越えての協働の可能性について、活動を通し学び実感させていただく機会が多くありました。意味あるユース参画の実現や持続可能な社会の構築は一朝一夕で達成されるものではなく、また絶対的な達成方法があるわけでもありません。多様な問題に対する多様な意見をどのようにJYPSとして発信していくのか、またそれぞれが日々の生活に忙しい中での活動は、時に壁にぶつかり悩み迷うこともございます。しかし、JYPSが創設してから9年間一歩ずつ歩みを進めてこられたのは、事務局員一人一人が地球規模課題を「自分ごと」として捉え、自身はどう行動をすべきかについて真剣に向き合ってきたからであると考えています。

これまで繋いできたバトンを受け継ぐ重みと責任を感じつつも、2024年度もJYPS事務局らしく、そして加盟員の皆さま、日頃からお世話になっている関係者の皆さまと共に、歩み成長していけるよう、共同事務局長として精一杯努めさせていただきます。一層のご支援とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

これまで繋いできたバトンを受け継ぐ重みと責任を感じつつも、2024年度もJYPS事務局らしく、そして加盟員の皆さま、日頃からお世話になっている関係者の皆さまと共に、歩み成長していけるよう、共同事務局長として精一杯努めさせていただきます。一層のご支援とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

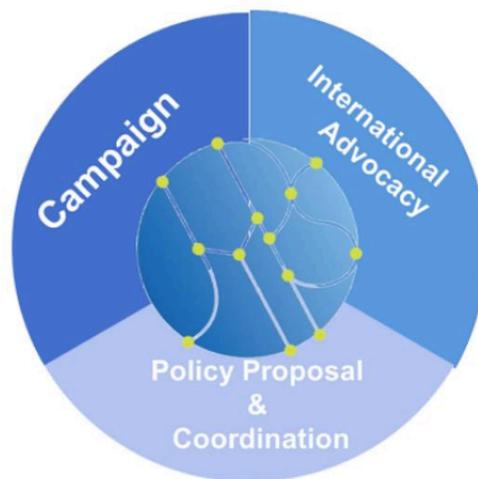
JYPSについて

持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム(JYPS:ジップス)は、社会のすべての若者が、公平に自らの意見を政策に反映させることを通じて、衡平で公正な社会が実現される世界を目指します。若者の意見を集約・調整する自治民主的な仕組みの設立、管理、そして改善をすることを通じて、若者が政府や国際的な枠組みに対しその意見を反映させることを可能にします。

活動内容

JYPSは日本の若者によるアドボカシーのためのプラットフォームです。アドボカシー活動は大きく分けて次の3つです:

1. 国際会議、国連会議、その他国際な枠組みを制定する会議とそれらの準備会合への参画
2. 政策文書作成、意見収集・調整を含む若者団体や若者個人の意見を政策提言にする活動
3. 政策提言を広く訴え、大きな支援を集め、人々を巻き込むためのキャンペーン活動



アドボカシーとして、政策提言、国連交渉参加、関係省庁との会議、キャンペーン、イベント、記事掲載などを行い、さまざまなバックグラウンドをもつ若者の声を実現することを通じて、社会を変革することを目指しています。30歳以下の若者または、若者団体、もしくは若者のために活動する団体であれば、だれでも参加することができます。

仕組みとガバナンス

JYPS では、活動テーマも団体の規模、地域も異なる多様な若者の団体が参加できるよう オープンで民主的な仕組みを採用し、代表制と民主制の担保を原則にプラットフォームを整えています。同時に、分野ごとの施文的な知識を最大限、政策提言に生かせるよう工夫をしています。意見交換やキャンペーン、政策提言の準備などはメーリングリストにて行われており、メーリングリストに登録すれば、意見を表明する機会や議論に参加することができます。

若者団体からは、各団体が「ポジションペーパー」と呼ばれる国連などで議論されているテーマに対してどう考えているのかを記したものを公表してもらうこともできます。

またそのような意見をまとめる作業にも、加盟している人はだれでも参加が可能です。

こうした機会を通じて、市民社会組織の立場から未来・次世代を担う新しい「ステークホルダー」としての「ユース」の地位を確立すべく、政策提言活動(アドボカシー)を展開しています。



政策そして社会を変え、若者が安心して暮らせる将来、活躍できる場を作るためには、若者内で力を結集することが、必要不可欠です。

JYPS 事務局は、国際的な意思決定の場やSDGsに関わる国内の議論に、若者の場を確保すべく、そして、持続可能な社会を作るためのパートナーシップを構築していきます。

2023年度事務局員

2024年3月31日迄

所属	役職	氏名
共同事務局長		田中梨奈
		本行紅美子
政策提言部	統括	森井悠里香
		三浦碧美
		遠山未来
		川田采菜
		大橋新野
		川和ニコラ
		嶋田恭子
		成田そら
普及啓発部	統括	山口凜
		野田莉々子
		東忠透
		前迎聖実(学業の都合上1月に退局)
総務部	統括	山口凜

※山口は普及啓発部および総務部を兼任している

2023年の主要活動

4月	<ul style="list-style-type: none"> • C7(civil7)・W7(women7)サミットへ運営団体として参加 • Youth Summit in 広島のカ開催
5月	<ul style="list-style-type: none"> • G7広島サミット関連活動 • 新人研修
6月	<ul style="list-style-type: none"> • GCoM Japan Cities and Youth Dialogueに参加 • G7ジェンダー平等担当大臣との対話イベントに登壇
7月	<ul style="list-style-type: none"> • 開発教育に関する勉強会の開催 • SDGs Youth Forumのカ開催(オンライン、1・2日目)
8月	<ul style="list-style-type: none"> • SDGs Youth Forumのカ開催(オンライン、3・4日目) • SDGsに対するユース世代の意識調査の実施
9月	<ul style="list-style-type: none"> • SDGs Youth Summit 2023のカ開催 • 2023 SDG Summitへの事務局員派遣
10月	<ul style="list-style-type: none"> • UNDP主催イベントへの登壇 • 国内省庁や国際機関との関係構築
11月	<ul style="list-style-type: none"> • SDGs実施指針改定へのパブリックコメント応募期間でのイベント • 関係機関に夏に作成した提言書の手交
12月	<ul style="list-style-type: none"> • COP28への事務局員の派遣 • ISAP2023への登壇
1月	<ul style="list-style-type: none"> • 次年度への準備 • 海外ユース団体との関係構築
2月	<ul style="list-style-type: none"> • 新プロジェクトの始動 • アドボカシートレーニングとして講師を招いての勉強会をカ開催
3月	<ul style="list-style-type: none"> • 次期体制への引き継ぎ • SDGsに対するユースの「行動と変革」のサミットのカ開催

JYPS事務局主催(共催)イベント

- 2023/04/13-14 C7 Japan 2023 Summit(共催)
- 2023/04/16 W7 Japan 2023 Summit (共催)
- 2023/04/16 Youth Summit in 広島
- 2023/07/07 パーム油から学ぶ開発教育とSDGs(共催)
- 2023/07/28-29 SDGs Youth Forum(1・2日目)
- 2023/08/4-5 SDGs Youth Forum(3・4日目)
- 2023/09/09 SDGs Youth Summit 2023
- 2023/09/22 SDG Global Youth Dialogue in ニューヨーク
- 2023/11/11 SDGs実施指針改定に向けた「#私たちが創るSDGs」
- 2024/03/20 ユースによる未来に向けた「行動と変革」のサミット



国際会議への参加

2023 SDG Summit



2023年9月16日～23日に、ニューヨークで開催された2023 SDG Summitへ参加しました。現地参加やそれまでのプロセスを今回初めて経験したことで見えてきた、ユース参画や国際交渉、国際会議における実態というものがかなり多くありました。どこが進んでいて、どこに課題が多く残されているのか、国内との類似点相違点なども多く発見することができました。やはり、日本を拠点に活動をするにおいても、SDGsをはじめとする国際課題を議論する際に、ある程度国際の状況も実体験的に把握しているのといないのとは、活動内容や質に大きく差が生まれるのではないかと思います。未だ限られた参加枠の中で、参加させていただいた物が参加経験をどのように日々の活動に落とし込み、活かしていくのかということも責任も感じました。

ネットワーキングも国際会合参加における最大のメリットだと改めて感じました。SDG Summitウィーク中のNYは、短期間に世界中からステークホルダーが集まり、普段交流できない人々と交流・意見交換をするには最適です。多くのユース、またその他のステークホルダーと名刺・連絡先を交換することができ、帰国後も意見交換をしたり繋がりを広げることができました。

COP28



2023年11月30日～12月12日に、アラブ首長国連邦で開催されたCOP28に参加しました。

Global Alliance of Universities on Climate (GAUC)のパビリオンに登壇し、JYPSの活動、抱えている課題、今後の活動の展望について発表しました。具体的には、SDGsの進捗が停滞していることを問題提起し、SDGsと気候変動の同時解決やユースの主体的で意味ある参画の重要性について述べました。また、今年の9月に開催されたSDGs Summitに向けて作成したYouth Proposal(政策提言)や日本版気候若者会議の運営の事例を挙げ、JYPSがユースのアドボカシー活動を促進するだけでなく、「誰一人取り残さない」包摂性の視点を重視していることを強調しました。

さらに、パネルディスカッションでは、「①文化的に土地に根ざした政策を作るために、ユースがどのように関わっていくか」、「②日本のユースにとって、持続可能性を理解するための国際的なパートナーシップは十分であるか」といった議題に対して考えを述べました。

また、イベント参加者からの質問に「日本人は原子力発電に対してどのような思いを持っているか」という質問があり、日本の政策に関心を持つ若者の存在を認識するとともに、改めて原子力問題の複雑性について考えさせられました。

参加ネットワーク一覧と担当者

田中梨奈	SDGs推進円卓会議 民間構成員
	次世代のSDGs推進プラットフォーム 議長
	SDGs市民社会ネットワーク 開発ユニット会議 担当
	環境パートナーシップオフィス等運營業務 運営委員会
本行紅美子	G7市民社会組織コアリション2023 幹事団体担当
	C7 Japan 事務局 広報担当
	SRHRユースアライアンス メンバー
	SDGs市民社会ネットワーク統括会議 ユースユニット担当
	野毛坂グローバル 第4回SDGs「誰ひとり取り残さない」コンテスト 審査員
森井悠里香	Women7 Japan 実行委員
	SDGs市民社会ネットワーク 理事
	SDG Youth Committee North-East Asia 構成員
	国連メジャーグループ Children & Youth 構成員
遠山未来	J-GBF(2030生物多様性枠組実現日本会議)企画委員・幹事団体担当
	日本版気候若者会議 運営事務局
川和ニコラ	こども家庭庁 こども真ん中社会実現プラットフォーム設立準備会合 委員
大橋新野	SDGs市民社会ネットワーク 開発ユニット会議 担当
	国際プラスチック条約制定に向けたユース団体「GPTY」メンバー
三浦碧美	国連メジャーグループ Children & Youth 構成員
山内彩	SDG Youth Committee North-East Asia 構成員

収支報告

2023年度収支報告書
2023年4月1日～2024年3月31日まで
持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム

科目				
I. 収支の部				備考
	1. 謝礼金			
		各種会議登壇 謝礼金	42,573	
		日経BP未来コトハジメコラム執筆料	2,154	
		生物多様性枠組実現日本会議企画委員 参加費	9,450	
		日本版気候若者会議事務局員 参加費	15,000	
		SDGs推進円卓会議 参加費	7,200	
		EPO等運営委員会	10,620	
		こどもまんなか社会実現PF参加費	44,748	
	3. 雑収益		31,573	
	4. 寄付金		530,380	
	5. 受取利子		14	
	6. 前年度からの繰越金		1,671,942	
	当期収入合計		2,365,654	
※各事業について当該金額分の助成金を申請予定				
II. 支出の部				
	1. 事業費			
		ユースサミット事業費		
		会議費	41,107	
		交通費	313,000	
		登壇者への謝金	20,000	5千円×4人
		広告宣伝費	29,414	
		SDGs Youth Forum事業費		
		登壇者への謝金	45,000	5千円×8人
		新時代のパイオニア事業費		
		交通費	30,410	1万円×3人
	2. 管理費			
		バナー費用	16,830	
		Webサイト運用費	24,200	
		Zoom費用		
		PR TIMES 契約費	88,000	
		新時代のパイオニア広告費	28,056	
		実行委員広告	5,005	
		イベント広告	9,489	
		各種会議への参加のための諸経費		
		交通費	22,000	
		振込手数料	6400	
	当期支出合計		678,911	
	次年度繰越金		1,686,743	

持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム（Japan Youth Platform for Sustainability: JYPS）
JYPSは、「社会のすべて人々が、公平に自らの意見を政策に反映させることを通じて、衡平で公正な社会が
実現される世界」というビジョンのもと、「若者の意見を集約・調整する自治民主的な仕組みの設立、管理、そ
して改善をすることを通じて、若者が政府や国際的な枠組みに対しその意見を反映させること」をミッションに
活動しています。

【お問い合わせ】: japanyouthplatform@gmail.com

【HP】<https://japanyouthplatform.wixsite.com/website>

【Facebook】<https://www.facebook.com/JYPS2030/>

【X / Twitter】<https://twitter.com/JYPS2030>

【Instagram】<https://www.instagram.com/jyps2030/>

文責：本行紅美子（共同事務局長）